

TP



気になる。身になる。新しい学びのカタチ。

科学でつながる
高岡 HUB 計画
現場に触れる
ものづくり工学
ゼミって？



身になる。新しい学びのカタチ。

教室で講義を受けるだけが授業ではありません。第一線で活躍する外部講師の授業、地域とのコラボ授業、医療の現場体験、ものづくり教育など、意外に知られていない授業を紹介します。

科学コミュニケーション



「科学コミュニケーション」では、一般的に難しいと思われる、がちな科学について、その面白さや社会の中での役割などを一般の人たちにわかりやすく、正しく伝える方法を学びます。

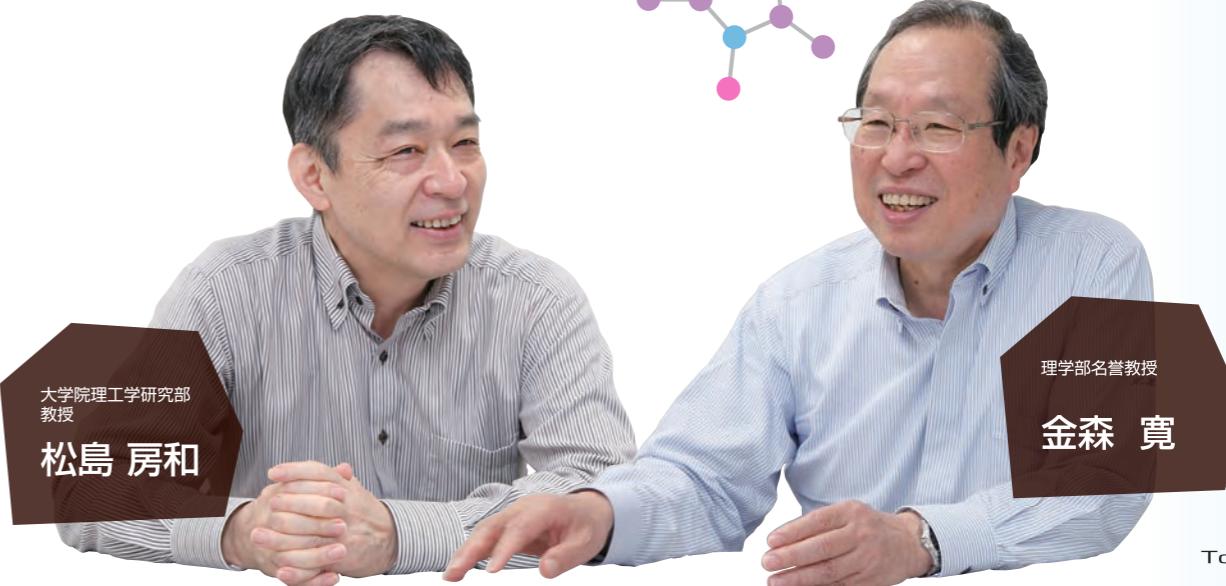
科学と一般社会をつなぐ橋渡し役になろう。

例えば、遺伝子組換え食品は安全? 原子力発電のメリットとデメリットは? など、これらを子どもにも大人にもわかるように解説するのは、本当に難しいもので。どうしたら科学の中身が伝わるか。やさしく説明するにはどうすればいいか。その手法を学び、実践するカリキュラムが「科学コミュニケーション」です。授業は前期と後期に分かれ、学外の専門家の協力を得て行われます。講師を務めるのは毎日新聞社デジタル報道センターの元村有希子さん、NHK制作局科学番組環境番組部の井上智広さん、フリーアナウンサーの廣川奈美子さん。魅力ある講師陣の話が直に聞けるとあって学生からの関心度も高く、人気の科目になります。

前期の授業では、サイエンスカフェの歴史と現状、映像を使って科学を伝えるコミュニケーション法、伝わる話し方を学び、集大成としてサイエンスカフェの開催を目指します。サイエンスカフェとは、科学の専門家と一般の人たちがお茶を飲みながら科学について気軽に語り合う場のこと。これまで「宇宙のふしきと素粒子のふしき」「玉入れに勝つ方法」などを取り上げました。そして、後期の授業では科学記事の書き方、研究者インタビューと原稿作成について学び、実習として理学部後援会報「りづか」に掲載するインタビュー記事の完成を目指します。



サイエンスカフェの様子（サイエンスフェスティバルにて）



大学院理工学研究部教授
松島 房和

理学部名譽教授
金森 寛

担当講師からのメッセージ

**体験してください！
科学を伝える難しさを、
うまく伝わった喜びを。**



毎日新聞社 デジタル報道センター編集委員
元村有希子さん

講義の題材は「いま、科学と社会との接点で起きていること」です。暗記する知識も教科書も、決まった手順もないため、普段受けている他の講義との違いに最初は驚くようです。また「自分の研究テーマを誰にでも分かるように2分間で説明する」という課題にとても苦労したりします。普段の生活が極めて限られた専門分野の中で閉じているためでしょう。それができるようになれば、専門以外の友人とのコミュニケーションが格段に向上しますし、就職活動にも有利に働くことを、彼らは実践を通して学んでいます。

これからの時代に求められる資質は「答えのない問題に向き合う勇気と好奇心」だと思います。環境、エネルギー、平和、貧困など、解決策は教科書には載っていないません。自分は何に興味があり、大人になったら何を学べばいいのかを考える「くせ」をつけておくといいと思います。ネット情報は玉石混交で、参考にするのはいいですが、「行ったつもり」「分かったつもり」にならないよう、まずは「自分が行動すること」を忘れないでほしいです。



討論や作文、サイエンスカフェの開催など、実践を多く取り入れた講義が特徴

ココが**身**になる！

実習で、研究者レポートを作成



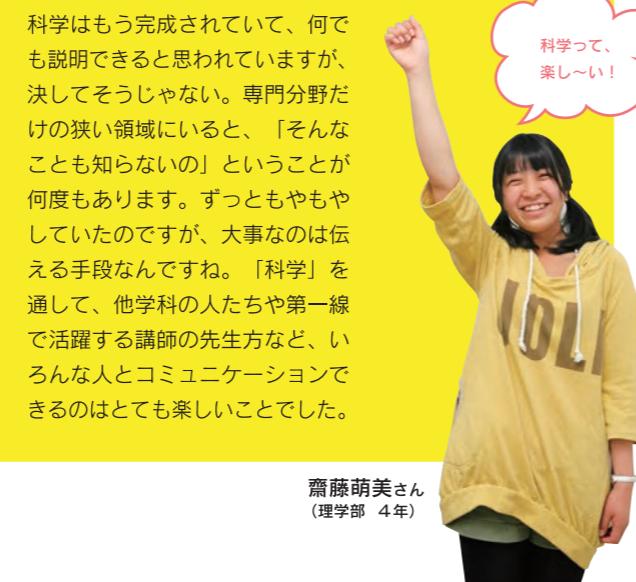
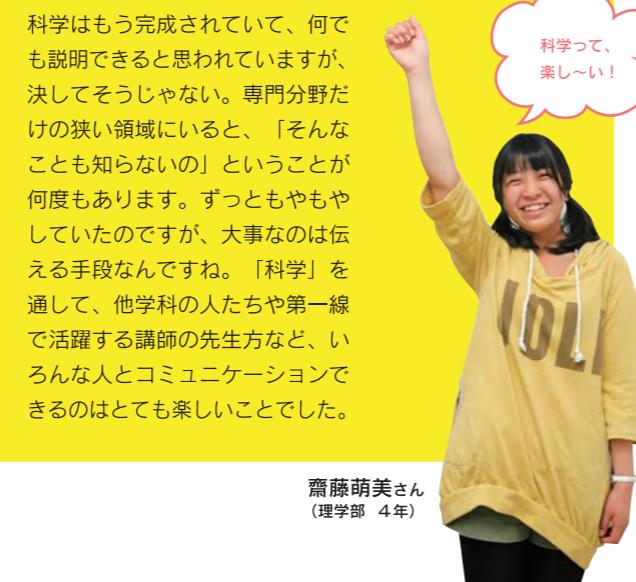
松本雄大さん
(理学部 3年)



斎藤萌美さん
(理学部 4年)

ココが**気**になる！

「科学」でコミュニケーション！



科学はもう完成されていて、何でも説明できると思われていますが、決してそうじゃない。専門分野だけの狭い領域にいると、「そんなことも知らない」ということがあります。ずっとやもやしていたのですが、大事なのは伝える手段なんですね。「科学」を通して、他学科の人たちや第一線で活躍する講師の先生方など、いろんな人とコミュニケーションができるのはとても楽しいことでした。

芸術文化を「つなぐ」「つなげ」「つかいこなす」ための地域連携教育に取り組む芸術文化学部。地域や地元企業と連携したさまざまなプロジェクトに多数の学生が参画しています。

「駅づくりプロジェクト授業」

「高岡 HUB 計画」

授業名
芸術文化学部
「製品評価法」

ヒト・モノ・コト・カネの
新サービス&プロダクトを
提案します！

高岡駅を元氣にするためのコラボレーション授業。

内田教授が担当する「製品評価法」では、地域連携を通して、人間中心設計における実践的な評価法ならびに「デザインを軸にした解決提案手法を学ぶこと」が目的。昨年後期から、JR西日本、高岡市中心商店街、高岡市役所との地域連携授業として、9名の学生たちが駅づくりプロジェクトに取り組んでいます。



「クルン高岡」で新企画のミーティング。

今春、高岡駅がリニューアルし、北陸新幹線開通に向けて新高岡駅が開設される高岡市。「高岡HUB計画」は、これらを契機に高岡を活気づけ、まちの中心となる駅への集客を拡大する施策と戦略の提案を目指したもの。授業では、学生たちが高岡駅でリサーチを実施。駅の利用目的、行き先、待ち時間などの聞き取り調査を行ったほか、人の流れや動きの中から問題点や課題を探る「人間行動観察」も行いました。学生たちは、これらのデータを基に「駅なか大学」「駅勉」「駅で乾杯!」など10点の企画をプレゼンテーション。この中から、実験的試みとして、今年1月に「たかおかトートバッグ」「えきなか実験室」の2つを実施し、翌2月にはプロジェクト内容の公開プレゼンテーションやプレゼンポーダーの展示も行われました。「高岡駅周辺の活性化につながるユニークな取り組み」として注目度も高く、マスコミにも取り上げられたほか、駅近くの商店街の皆さんからも好評で、学生たちのスキルアップにもつながっています。

担当の内田教授が初めて高岡駅に降り立った時、「これが駅なのか?」とがく然としたことが引き金となつてスタートした駅づくりプロジェクト。春には高岡ステーションビル「クルン高岡」がオープンするなど、高岡駅は人とまちをつなぐ拠点として生まれ変わりました。



芸術文化学部 教授
内田 和美



授業の中身をクローズアップ！

観光客・ビジネスマン向けの取り組み

たかおかトートバッグの提案

高岡駅ならではのサービス展開として、旅行を快適にする試みを提案。高岡を楽しむツールが詰まった「高岡トートバッグ」の販売を実験的に行い、利用状況を調査しました。



地元の方に楽しんでもらう取り組み

えきなか実験室からの発信

駅を利用する人たちの交流や出会いを広げるための企画・提案を行う「えきなか実験室」を設置。「えき近夕市」でお惣菜のレシピや野菜のミニ知識メモを配布したほか、夕市オリジナルシールを制作して、買い物の楽しさを感じられるようお手伝いしました。



ココが身になる！

発想の種は 「人間行動観察」。

紙袋を持った人が何人も！ 中身は何？ この案内看板だけ一部だけがはがれてる… など、行き交う人の無意識な行動や、行動による痕跡を観察し、発想につなげるのが人間行動観察。コミュニティデザインには欠かせないアプローチです。

人の目線、動き、
持ち物など
毎日観察してました
(笑)



期待度120%です！

北陸新幹線開通に伴い、人の流れも大きく変わります。駅はまちの顔ですから、面白そうと思つてもらえる仕掛けやそれをPRする仕組みづくりは高岡の活性化に欠かせません。我々も、学生たちの柔軟な発想やフットワークには大いに期待していますし、これから高岡にとっても重要なキーポイントになるとと思っています。



JR西日本金沢支社 企画課長
塚本 大輔さん

三宅沙英さん
(芸術文化学部4年)



薬の場所を覚え、正確に揃えることが大切。

薬学部の実務実習には、病院実習と薬局実習があります。実習期間はそれぞれ11週間ずつで、保険調剤、医薬品などの供給管理、情報提供、健康相談、医療機関や地域との関わりについての基本的な知識、技能、態度の修得を目指します。

薬局実習の舞台は調剤薬局。薬剤師の仕事は処方箋に基づいた調剤だけが仕事ではないということがよくわかる現場で実習に際しては、薬剤師免許を持たない共用試験をクリアしなければなりません。その代表的な業務が、服薬指導。患者さんが安全に安心して服用できるよう、薬の飲み方や使い方を説明したり事前に調剤や服薬指導の練習も行われるなど、福森特命助教。実習前には学内で事前に調剤や服薬指導の練習も行われるなど、福森特命助教。実習前には学内で

大切なのは、患者さんとのコミュニケーション。

廣橋 峻さん
(薬学部5年)

薬局で初めて目にする薬も多く、間違えないよう真剣にやっています。服薬指導はまだこれからですが、緊張しますね。

患者さんは一人ひとり、性別や年齢、病状や身体の調子が異なることから、医薬品が適正に使用されるように検査結果や処方内容のチェックを行うだけでなく、医療機関内でのみ使用する医薬品の製剤、注射薬のセットや多くの医薬品の管理など様々な業務を行います。

薬剤師はただ薬を出すだけではなく、患者さんの体調や他の薬との飲み合わせなど、考える事が多く、奥が深いと思います。

また、病院には院内感染対策や緩和ケアなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

薬学部の学生には新入生の時に、病院業務を見学する機会がありますが、実際に活動するのはこの実習が初めてになります。長期間の実習を通じて多岐にわたる業務に携わることには困難を伴うこともありますが、日頃培った知識を活かし、多くのことを学び、薬剤師として患者さんと一緒に働きたい、良質な医療の提供に努めています。実習では学生がチームの活動や、回診、カンファレンスなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

薬学部の活動や、回診、カンファレンスなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

また、病院には院内感染対策や緩和ケアなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

また、病院には院内感染対策や緩和ケアなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

また、病院には院内感染対策や緩和ケアなどの業務に参加します。薬剤師だけではなく他の職種が混じり合う環境の中では、医薬品に関する様々な情報の収集や提供を行うD-1(ドラッグ・インフォメーション)業務が非常に重要となります。

実習では県内14か所の病院にご協力いただき、学生が実際の現場で活動を行います。この実習では、医師から発行された処方箋に基づいて、医薬品を交付する調剤に始まり、1回に服用する薬剤の量が正しく調剤されているかを確認する鑑査、抗がん剤などの調製や病棟での服薬指導、院内でのみ使用する医薬品の製剤、注射薬のセットや多くの医薬品の管理など様々な業務を行います。

医学部や薬学部の実習では、県内の医療機関などの協力の下、学生が日頃培った知識を活かし、実際の現場の中で活動し、地域との関わりを学びます。今回は薬学部の実務実習を紹介します。



現場に触れる

実務実習

病院の中で、薬のことについて学んでほしいと思います。



授業名
薬学部
「病院実習」



実習で学ぶことは、いっぱい！

授業名
薬学部
「病院実習」

授業名
薬学部
「病院実習」

ての仕事のやりがいを実感できる貴重な役割を果たしています。



薬を扱うときは、真剣です



多岐に渡る薬剤師の業務をしっかり学びとってください！

富山県立中央病院
薬剤部 部長
酒口 弘光さん

ココが身になる！

薬剤師の仕事は幅広い！

薬剤師の仕事というと、真っ先に薬局や病院が思い浮かびますが、それだけではありません。製薬会社、保健所などの行政機関、食品メーカー、化学メーカー、化粧品メーカーなど実に幅広い分野で卒業生が活躍されています。

岩田美奈さん
(薬学部5年)
黒崎史太さん
(薬学部5年)

ココが気になる！

薬を正しく患者さんに提供することの重要性を学びました。

富山県立中央病院
指導薬剤師
桐井美由紀さん

薬剤師である前に、社会人としての意識付けも大切です！

(左から)
大学院医学薬学研究部
医療薬学研究室 助教
岡崎 史泰
大学院医学薬学研究部
保険薬局学研究室 特命助教
福森 史郎
大学院医学薬学研究部
保険薬局学研究室 特命助教
沓掛 真彦

ココが身になる！

実習は就活にも役立つ！

実習では医師、看護師、薬剤師、患者さん、いろんな方と接することになるので、挨拶や身だしなみも重要なポイント。「そんなもの当然」と思いかでですが、意外にできていないことも！？患者さんとのコミュニケーションも、就活時の面接に役立ちますよ。

ゼミについて？

高校と大きく違う授業スタイルが「ゼミ」(ゼミナールの略)。専門分野の知識や技能を身につけるために、自ら指導教授を選び、学問研究を行う少人数制の専門授業です。

自分の目で見て、聞いて、自信をもつて発信する

人文学部 中井ゼミ

自分は、これからどんなふうに生きていくべきか。人のために社会のために何ができるのであろうか。誰もが若いころ、将来に対して漠然と持つ問いや不安があると思う。

私たちの研究室では、普段何気なく使っている「ことば」に注目して、富山県はもとより、日本全国時には中国や韓国、台湾にまで活動の範囲を広げてフィールドワークに出かけている。それは、自分の目で見て、自分の耳で聞き、自分の鼻

や舌、皮膚で感じ、確かめることができることで、自信をもつて社会に旅立つてしまいと考えるからである。

次はどこへ行つて、どんな人出会い、どんな話を聞き、どんな発見があるだろうか。研究室には、フィールドワークによつて培われた、陽気で明るく、自信をもつて難しい課題にも積極的にチャレンジしていくような頼もしい学生たちで溢れています。



人文学部 教授
中井 精一



調査風景

ココが気になる！

ゼミのメリットは、仲間！

少人数で、しかも同じ目的意識を持った学生たちが参加するので、仲間意識が自然に生まれてきます。ゼミのメンバー同士で飲み会や旅行などを楽しんだり、今後進むべき道について先生にアドバイスをもらったり。ゼミは、充実した大学生活と大いに関わっている！といつても過言ではありません。

●学生の声

ことばの奥深さに魅せられて



大徳 菊花さん
(人文学部4年)

この研究室では、各地でフィールドワークを行いながら日本の方言について研究しています。方言の研究は、人々の暮らしとつながったことばを研究の対象としているため、各地に出かけていて、巡検をしたり、祭に参加したり、時にはムラの清掃活動のお手伝いなどもしながら、お話を聞き、暮らしに触れることもあります。

研究を通じて、普段何気なく使っていることばの奥深さを感じるとともに、日本人の暮らしの多様性に驚く毎日です。



梅田 貴大さん
(経済学部4年)

●学生の声

ゼミの研究を国内外で発表



ゼミの様子

昨年度もゼミでの研究を国内外で発表してきました。国内では首都圏屈指の大学と、海外でもやはり著名な大学と真剣に発表をし合う場となりました。そのような経験は、地方国立大学にいながらも国際的な領域でも自分の能力は通用するという自信と、首都圏や海外の学生から直接得られた熱量から、さらに成長したいという向上心につながっています。

内田ゼミには首都圏や海外の学生たちに負けないよう、真剣に取り組むことのできる環境が整っています。その環境の中で、私たちは一人ひとり明確な目標を持ち、切磋琢磨し合い成長しています。

研究の基盤になるのは、フィールドワーク

人間発達科学部 山根ゼミ



人間発達科学部 教授
山根 拓

学生が地理学的なものの見方・考え方、分析技術等を身につけ、地理学研究を実践する能力を得ることが、このゼミの目標である。そのため「ゼミナール」「地理学演習」「地理学フィールドワーク」といった授業が開講され、過去の地理学研究を学び、地理学的研究実践の方法を実習する。地理学は、地域に存在したり発生したりする地理的現象に注目し、そうした現象の意味を問い合わせ、その生成理由やメカニズムを解明しようとする学問である。研



地理学フィールドワークで神戸に。
阪神淡路大震災の被災状況を残した港湾地区を見学した。
2013年2月11日

地理学演習での舟橋村調査の一コマ。
景観観察と説明をしているところ。

●学生の声

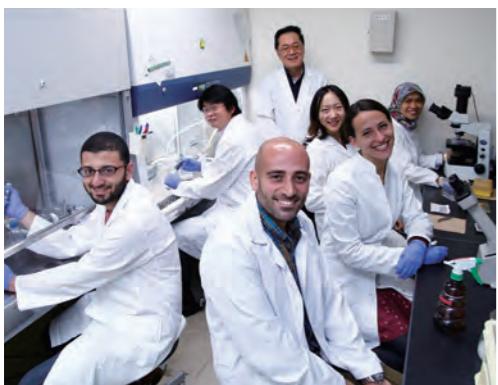
深く知り、調査する楽しさ



重原智恵さん
(人間発達科学部4年)

私は、地方の公共交通に興味があり、利用者の減少により廃止されつつある地方鉄道をいかに存続していくかということについて研究しています。このゼミでは、様々な地域の状況を地理的な視点で見ることで、地域の歴史や社会の中での位置づけなどについて深く知ることができます。

自分の興味のある地域について深く調査することはとても楽しいですし、ゼミ生と共に調査したり、時には談笑したりすることも楽しく、互いに高め合いながら研究しています。



研究室の半分を占める一部の留学生たちと培養室にて。
公用語はもちろん英語！

病態生化学分野の教授として着任したのは、20年前。この間、研究室には薬学部出身の学生・大学院生（博士取得29名）に加え、医学部所属の医師（博士取得24名）、海外からの留学生（9カ国45名）、製薬会社の派遣研究員など、およそ161名が出入りしている。

「研究は自分一人じゃできません。いい研究も、素晴らしい人たちがいてくれるからこそ。巡り合いで感謝ですよ」と語る済木教授は、彼らとともに漢方方剤、構成生薬およびその化学成分を用いて多彩な研究活動を展開。数々の実績を挙げている。

一貫して取り組んではいるがん研究。「転移を制するものはがんを制する」を

研究活動も教育も、 巡り合いを大切に

漢方との出会いは岐阜薬科大学時代。硬式野球部で活躍するかたわら、東洋医学研究会に所属。「何となく入ったんだけど、これが意外に面白くてね」とこやかに話す済木教授。「当時のわずかなメモリが今も残っていて、がんの研究と漢方を結びつけるきっかけになった。そう考へると、これも巡り合いかなと思ふんです」。

大阪大学大学院医学研究科、北海道大学免疫科学研究所、アメリカ・MDアンダーソンがんセンターへの留学など、研究活動を続けてきた背景には様々なチャンスを与えてくれた教授たちの存在があった。済木教授にとっては、これもまた「巡り合い」であり、「今度は自分がチャンスを与えるたちを育てていく番」という思いが年々強くなつていったといふ。



和漢医薬学総合研究所
病態生化学分野 教授

済木 育夫
さいき いくお

シリーズ 研究者紹介

News

北陸地区 国立大学体育大会、開催！

第66回北陸地区国立大学体育大会が開催されました。今年は富山大学の主催で6月上旬から7月中旬にかけて各競技が実施され、県内の会場では学生たちの熱い戦いが繰り広げられました。



砺波総合運動公園で実施されたラグビー競技

富山大学 前学期スケジュール

学期	事 項	五福キャンパス 高岡キャンパス	杉谷キャンパス
	授業期間	4/10(木)～7/29(火)	4/10(木)～7/29(火) ◆4/4(金)より、医学科3・4年次 (専門科目)授業開始
前 学 期	補講・試験 (予備日)	7/30(水)～8/5(火)	7/30(水)～8/5(火), 9/1(月)～9/30(火)
	夏季休業	8/6(水)～9/30(火)	8/2(土)～8/31(日)
	成績発表日	9/1(月) 8:30～	7/18(金)以降(予定)
	開学記念日		10/1(水)

富山大学 理工ジョイントフェスタ

本学理学部で開催の「サイエンスフェスティバル」、工学部で開催の「夢大学 in 工学部」の2つのイベントを時期を合わせて開催します。

理学部 サイエンスフェスティバル2014

開催日:平成26年9月27日(土)、28日(日)

<http://www3.u-toyama.ac.jp/scifes/>

理学部の学生が主体となって地域と大学との交流を目的に開催しており、今年で7回目となります。理学部6学科の専門性を活かした実験や展示をご覧になり、常識が覆される瞬間を体験してください。



※写真は過去のイベントの様子

夢大学 in 工学部2014

開催日:平成26年9月28日(日)

昨年は「～好奇心・アイデア・創造～」のテーマの下、工学部の各会場へ多くの方にご来場いただきました。今年も小・中学生を対象にした、バラエティに富んだブース科学教室やマジックショーの他、外部講師による特別講演が行われる予定です。



がん転移の 解明と その制御

Tom's Circle

クラブ・サークル
紹介

児童文化研究会

たくさんの子どもたちと
触れ合える！



児童文化研究会、通称「どうぶん」です！部員数は約80名と大勢でワイワイ楽しく活動しています。どうぶんでは、週に1回富山市周辺の児童館へ行き、子どもたちと遊んでいます。また、夏には市外の小学校で、冬には児童館で巡回公演を行っています。児童劇や人形劇、自分たちで作ったゲームを子どもたちに披露します。その他にも、小学校や児童館から劇やゲームの依頼を受けたり、子ども向けイベントの補助などもしています。元気いっぱいの子どもたちと接するのは、とっても楽しいですよ！

それに、どうぶんは部員みんな個性的でおもしろい人ばかりです！一緒にいて飽きることはまずありません！（笑）子どもが好きな人！おもしろいことが好きな人！ぜひどうぶんへ！！

富山大学よさこい部TNC

一度やったら、
やめられない楽しさ



こんにちはTNCです！高岡キャンパスを中心に五福から参加している部員も含め約40名で激しくかついいよさこいを楽しんでいます。8月に富山市で開催される「よさこいとやま」という大会を最終目標に、県内外で開かれる様々なお祭り・イベントに参加しています。毎年テーマを決めてオリジナルの曲、振り付け、衣装で一つの作品を作り上げていきます。

踊らなければ知ることのできない楽しさ、熱さなどがよさこいにはあふれています！皆で一つになり、作り上げ、感動がお客様に伝わる瞬間はやみつきです。TNCでは踊り子だけでなく旗士、口上、歌い手、マネージャーも募集しています。少しでも興味のある方！私たちと一緒に大学生活の忘れられない思い出を作りましょう！

武田流中村派 合氣道部

初心者、
大歓迎！



合氣道…その歴史は大正時代までさかのぼります。柔術・剣術などのさまざまな武術の要素があつて、心も身体も鍛えることのできる総合武道です！そんな合氣道の中でもわが流派は、より実践を意識していて、演舞だけでなく、試合形式の捕技と総合という競技も行っています。

さらにうちの部活の魅力を語ると…初心者ばかりでスタートラインは皆同じ！上達はばっちり保証！全国一位にもなれる！他大学との交流あり！部員皆仲良しで和やかかつ締めた雰囲気の中、仲間と切磋琢磨できる！やせたい、強くなりたい、体力をつけたい、新しいことを始めたい人、もちろん合氣道をやりたい人！大大大歓迎！いつでも遊びにいらしてください、部員一同心よりお待ちしています。

富山大学アメリカンフットボール部

目指せ
北陸制覇！



アメフト部は過去5年以上リーグ戦での最下位が続いていましたが、徐々に力をつけていき昨年は4位、そして昨年は3位にまでのほりつけました。

普段は監督・コーチによる指導のもと練習を進め、休日には社会人チームや他大学との合同練習を行ってチームの向上に努めています。

そんな私達がリーグ戦3位で満足するわけがありません！目指すは北陸制覇！アメフト人口が少ないこの北陸でも現在39名の部員に恵まれて、確実な成長をとげています。しかも全員がアメフト初心者で個性派揃い！大学生活をアメフトに託しませんか？最高の4年間になること間違いない！最高の仲間達があなたを待っています！

各キャンパスでいきいきと活動する
クラブ・サークルをピックアップ！

私の夢を支えてくれる「詩クラブ」

大学生活の思い出の中で最も印象深いのは、所属していた「ロシア言語文化コース」の「詩クラブ」です。詩クラブでは、詩人であるカザケーヴィチ先生がロシア文学の銀の時代の詩人を一人選び、前期は詩人の生涯についての先生の講義を上級生が通訳、後期は学生が主体となって各自が詩の翻訳を発表します。そして、詩の解釈についてディスカッションと先生への質問を重ね、翻訳を完成させます。大学入学前からできましたが、詩クラブを通して、他人並み程度に文学作品や語学に親しんできました。そこで、詩クラブを通して読んだの言語で書かれた詩を声にして読んだときの音の美しさ、その本来の音を損なわぬよう適切に訳すことの難しさ、限られた言葉の中に解釈の多様性を秘めた詩の奥深さをはじめて知りました。



平成26年3月 大学院人文科学研究科 修了
株式会社シリウス
いわの あやみ
岩野 彩仁さん

File
01

ロシア語を学びはじめた頃は、ロシア語の運用能力を高め、在外公館や貿易関係で活躍したいと考えておりましたが、詩クラブを通して育んだ文学への想いから、地元新潟で最も好きな書店である「知遊堂」を事業の一つとして展開している株式会社シリウスに入社しました。現在は「知遊堂」で文学作品の販売に関わることを目標に、会社の事業の一つである遊技場の接客スタッフとして勤務しています。夢のスタートラインにはまだ立ていませんが、詩クラブでの体験が今の私を確かに支えています。あなたの大学生活において、卒業後も糧となるような出会いがあることを願っています。

HELLO

●各界で活躍する先輩からのメッセージ

ハロー 先輩

母校に貢献するのが恩返し

私は富山大学大学院理工学教育学修了し、現在は富山大学の事務職員として勤務しています。私が学生時代の生活を何不自由感じることなく過ごせたのは、見えないところで職員の支えや努力があつたからだと思います。富山大学に貢献したいといふ気持ちからこの職を志望しました。私の現在の主な担当業務は、教室の割当整備やインターンシップ・ボランティア、非正規生(科目等履修生や研究生、特別聴講学生)に関することです。

また、この主務以外にも委員会資料の作成や証明書の発行、休講連絡など、日々多様な業務に携わっています。失敗したり、迷惑をかけたりと、なかなか思うようにいかない日もありますが、色々な人に感謝される度に、この仕事がしていてよかつたと感じます。私の大学生活を振り返ると、本当に充実した日々の連続でした。学部時代は友人とバーベキューやスポーツで汗を流したり、全国各地へ旅行したりと、活動的な生活を送ることが出来ました。仲間とともに過ごした日々は年月が経つた今でも忘れる事のない、大切な思い出となっています。また、大学院では指導教員の木村巖准教授にご指導いただき、満足のいく修士論文を残すことができました。

大学生活は勉強がすべてではないと思います。人との関わりや新しいことへの挑戦など、毎日の生活の中に潜んでいる「発見」を大切にし、有意義で実りのある大学生活を過ごしてください。



平成26年3月
大学院理工学教育学修了
富山大学 人間発達科学部 総務課
やまと まさひろ
山本 将大さん

File
02



- 01 NCルーターで部材を加工している様子
 02 3Dモデリングソフトでデザインを展開
 03 部材を組み立て完成した作品(前田めい)
 04 オープンキャンパスでの展示の様子

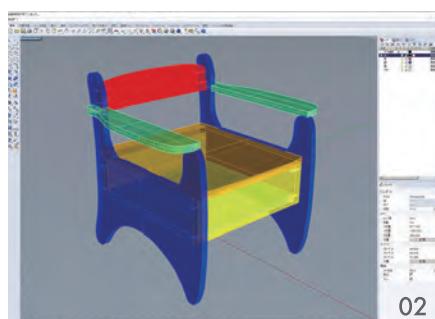
TOM'S GALLERY

NCモデリング(木工)

芸術文化学部には、3Dプリンターやデジタル機器を制御するCAD/CAMシステムなどのデジタルツールが整備され、デジタルツールを使った授業が複数用意されています。「NCモデリング(木工)」もそのひとつで、この授業では、NC(Numerical Control: 数値制御の略)工作機械による家具の制作を行います。課題を通して、NC工作機械を動かすプログラミングの基礎知識を学ぶとともに、CAD/CAMシステムの工程を把握することを授業の目的にしています。平成25年度の課題では「子供の家具」をテーマにNC加工の特徴を活かした家具のデザインとモデリングを行いました。楽しげで子供の視点を大事にした作品は、オープンキャンパスの授業成果展で発表を行い、多くの来校者に見ていただきました。



01



02



03



04

(芸術文化学部 講師 内藤裕孝)

発行日：平成26年7月15日

発行：国立大学法人 富山大学

編集：トムズプレス専門部

- ・飯田 敏 大学院理工学研究部 教授
- ・中澤 敦夫 人文学部 教授
- ・廣瀬 豊 大学院医学薬学研究部 准教授
- ・渡邊 雅志 芸術文化学部 准教授
- ・早川 芳弘 和漢医薬学総合研究所 准教授

問合せ先：富山大学総務部広報課

〒930-8555 富山市五福3190

TEL076-445-6028

FAX076-445-6063

E-mail kouhou@u-toyama.ac.jp

<http://www.u-toyama.ac.jp/>

Tom's Press はインターネットでもご覧いただけます。

本誌は、富山大学構内などで無料配布しています。
 郵送を希望される方は、住所・氏名・年齢・性別・職業を
 明記の上、メール又ははがきでお申し込みください。
 本誌は、年4回、3ヶ月毎に発行します。
 ご意見、ご要望をお聞かせください。

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。
 再生紙と植物油インクを使用しています。



リサイクル適性④

無断転載はご遠慮ください。

印刷・製本 株式会社チューエツ

ISSN 1880-6678

Cover Story

“铸造室”芸術文化学部

富山大学高岡キャンパスの奥にひっそりと佇む
 独特な土の空間。溶かした金属を型に流し込む
 鑄造の実習現場です。5コースからなる芸文では、
 この部屋の存在を知らない学生もいると言います。
 この空間にいると、高岡は鉄物の街であること、
 芸文が高岡と強く結びついていることにあらためて気づかされます。

表紙担当／有松美琴 大森真衣 北村彩華 征矢尚子 撮影／小泉巧（すべて芸術文化学部生）

今号から表紙がリニューアルされました。富山
 大学の各学部や病院、研究所など特色ある現場
 を1枚の写真に捉え、総合大学である富山大学
 を感じていただきたいと思います。

表紙監修／芸術文化学部准教授 渡邊雅志